

「議員定数のあり方」に関する意見交換会における各議員の意見
(平成26年10月20日開催)

【意見内容 - 発言順】

発言順	氏名	定数のあり方	理由(要旨)
1	田口 博	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・定数削減となると、特定の支持基盤のある人のみが当選し、議会の構成や考え方が偏ることとなり、多様な意見を反映できない。 ・委員会を構成する上で、1委員会6人構成では十分な議論ができないと考えており、委員数は7～8人は必要と考え、委員長は実質的な議論に加われないので、8人×3委員会=24人で、これに議長を加え25人となる。 ・千歳市は面積が広く行政課題も多いこと、さらに人口も増加しており、同じ人口規模の団体との比較だけで議員定数を考えるべきではない。 ・議員定数削減だけが議会改革ではない。
2	宮原 伸哉	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数を考える上で3つの点を考えており、前回選挙の無投票に対してどう考えるか、定数削減で痛みを伴った改革を行なったということだけでは陥りたくない、平成23年の自治法改正により定数の上限は撤廃されたが、撤廃となった今も、議員が住民の声を議会に反映させるためには重要な数値であるということをお勧めして考えた。 ・市民を重視した観点では、議会の状況を知らせるため報告会を開催した際、コミセンが12カ所あるが、半分の6地区で議員報告会を実施した場合、1地区3人の議員が担当すれば3人×6地区+議長=19人だが、4人の議員が担当すれば25人が必要であり、19人では委員会方式で考えてもそぐわないことから、25人が的確であると考えている。
3	落野 章一	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・議会は民意を反映させ、市民の利益・福祉を図ることが目的であり、議員の識見を高める学習はもちろん必要だが、議員が多いほうがより多くの民意を反映することができる。 ・議員報酬が高すぎて財政負担が過剰負担であれば定数削減だが、過剰ではないと考える。 ・現行の3委員会でもそれぞれ担当する事案が多く、これ以上委員会は減らせない。 ・今の議会は素人の集団であり、多いほうが議論ができる。
4	小林 俊晴	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数を導く方程式を探したがない。 ・議会に求められているもの(チェック機能、政策提言)の向上が必要である。 ・支持母体があれば選挙を戦えるが、定数を削減すれば当選のハードルが上がり、新人が入りづらくなる。 ・若い人が選挙に出られる環境づくりが必要と考える。
5	山口 康弘	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・理由は宮原議員と大半が同じである。 ・議員になって、議員活動は時間と労力を使うことが初めて分かり、このことが市民に伝わっていない中で、議員定数を増やす減らすの議論は問題であると考えている。議会の動きは見えるが議員の活動が見えないため、まずは活動の透明化を図ることが大事である。 ・市民の声を聞き、議会活動に反映させることが大事である。議員活動が行政のチェック機能だけでは定数削減でもよいが、市民の声を聞き反映させていくためには、現状の定数が多いとは思わない。 ・議会改革の取り組みを行ない自助努力をしても、議員の活動が見えなければ、選挙による審判を受けることになる。そこで、改めて議員定数の議論をすればよいと考える。
6	岡部 いづみ	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙において多くの方にチャンスを与えたほうがよいと考える。 ・前回の無投票選挙では、立候補を辞退した人の意見で、組織票には負けるから出ないというものもあったと聞いている。 ・多様な考え方を持った人が2年後に組織を徐々につくって選挙に出られるよう、キャンペーンを広げたほうがよい。千歳市議会は、女性や若い人が少ないと思うので。 ・委員会が6～7人の構成では、よい意見が出ない。多くの人がいることによって、よりよい意見が出てくると思う。
7	山崎 昌則	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出た現状維持の意見と同様の考えである。 ・過去2回のアンケートは1%に満たない回収率だったが、6割～7割が定数削減との回答であり、これは深く受け止める。 ・いかに民意を議会に生かせるか、行政に反映させるかが大事である。

「議員定数のあり方」に関する意見交換会における各議員の意見
(平成26年10月20日開催)

【意見内容 - 発言順】

発言順	氏名	定数のあり方	理由(要旨)
9	今井 俊雄	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・無投票だったことを受けて、当初は定数削減もやむなしと考えていたが、委員会構成や財政規模などから25人が妥当と考える。今後、納得できる考えがあれば、考え方を考えるかもしれない。
13	米内山 淳二	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・無投票の時点では減らすべきと考えていた。過去の定数削減の際の検証では、近隣他都市との比較で、常任委員会の審議数や審議時間が多かった。定数を減らすことによって、もっと大変になるのではないかと話もあった。 ・定数を削減しても議会運営は行えるが、審議や協議をしていく上では、多くの市民の意見の反映が必要という観点から、現状の定数でよいと考える。
14	佐藤 仁	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・日本共産党としては、あるべき姿は増員であるが、市民の意見等を勘案すると、増員では市民の意見と遊離するだけである。 ・投票率はどんどん低下しており、なぜ市民が離れたのかを解明するのが政治を担う者の責務である。 ・市民負担が増す案件が出て議会では賛成ばかりで、そこに問題があって、誰のための議会なのかと考えることが重要である。まずは、議員数がどうこうというよりも、議員・議会のあり方が大事であり、市民の立場に立った議会活動を日常的に行うことが重要である。 ・一番大事なのは、市民との結びつきを強化することである。 ・現状維持が最低限の条件である。
16	堀江 政行	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に議会改革特別委員会などに所属したが、改革の目玉は定数削減であり、千歳市議会は議会改革(定数削減)を先進的にやってきた自負がある。 ・人口が増えれば都市化が進み、投票率が下がるのは一般的であり、重要なのは、立候補に二の足を踏んでいるのはなぜかということである。 ・千歳市議会は委員会中心主義で議会運営を行っており、6人になっても運営はできると考えるが、議員定数を減らしてベテラン議員が減り、新人議員がこれ以上増えたら、議会運営が行えるのかという不安もある。
18	神田 聖子	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・市民との話し合いでは、50人で活動しても10人で活動しても同じとの意見があった。 ・定数を削減すれば出づらくなるということが現実だと思った。 ・市民と議員の認識に乖離があり、これからの議会改革の中で、市民に判断していただくしかないのではないかと。 ・さまざまな年齢層から、幅広く議会に出るべきである。
19	松隈 早織	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな研修に参加したが、地方の自治は自分たちで守るということ。 ・各自治体で課題は異なっており、必ずしも類似団体を参考にしなくてもよいのではないかと考える。 ・25名の議員が歯を食いしばって、大きい権力を持つ市長に対しての監視機能を効かせるためには、25の数が千歳市としては必要と考えている。
20	太田 憲之	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革で求められているのは、議会活動を透明化することではないか。 ・議会活動をすればするほどコストがかかるが、政務活動費も少ない。若い人が立候補するにはリスクが大きい。 ・市民は、議会活動が見えないから、イメージ先行で議員定数が多いと言っているのではないかと。 ・まずは、議会改革でさまざまな取り組みを行い、それを踏まえた上で定数を論じればよいのではないかと。一度定数を下げたら、引き上げるのは困難である。
22	坂野 智	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで削減をしてきて、人口9万5千人で議員25人が多いのか少ないのか。 ・因果関係があるかどうか分からないが、これまで定数を削減してきて、議会は衰退(質の低下)してきているのではないかと個人的には考える。 ・定数と報酬・財源は分けて議論してほしい。 ・宮原議員と同意見であり、まずは、議員の質の向上が最優先と考える。
24	高秀 政博	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・発言機会なし

「議員定数のあり方」に関する意見交換会における各議員の意見
(平成26年10月20日開催)

【意見内容 - 発言順】

発言順	氏名	定数のあり方	理由(要旨)
8	田中 哲	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・議会運営の点では、定数が少ないより多いほうがよいと考えるが、そもそも、もっと議員の質を高めなければならない。 ・現在、議員や公務員へのバッシングがあるが、事務方に聞けばよいことも質問をしておき、質問の質を高めるなど、しっかりした議員活動をするのが大切であり、そのために議員定数を減らすということも一つの方法ではないか。 ・現在は定数減であるが、もう少し慎重に考えなければならないと考えている。
11	香月 正	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年から議会改革を進め、推進プランを策定したが、プランの中で議員定数についての検討を掲げており、議員定数削減は避けられない問題と考える。 ・大学教授や定数削減を行った他市議会の話聞いた中では、議員定数に基準はなく、委員会構成や人口比例、類似都市との比較から定数を考えるのがよいと思った。 ・人口9万～10万人の都市の議員定数の平均は23.8人、また、8割が3常任委員会で委員数は7～8人となっている。また、人口比例方式では議員1人当たり4,004人に1人(千歳市は3,796人に1人)となっている。 ・類似団体との比較が一番明解であり、定数は2～3人削減でよいのではないかと。定数23人の場合、総文8人、産建と厚生は7人。定数22人の場合、3委員会全て7人。
12	古川 昌俊	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年の定数削減(28人→25人)のときにも関わったが、平成6年に初めて議員になったとき、議員は多いのではと感じていた。議員の顔が見えないと感じていた。 ・市民に開かれた議会、議員であるためには、議員定数が少ないというのが条件なのかと考えていた。市民の意見は、少ない数の中でがんばってほしいということだと思う。 ・現状維持の考えも尊重したいが、過去には委員会の委員が6名で行ってきたこともある。現状の3委員会がどうなのか、委員会数や委員数の検証をすることも大事である。 ・無投票のことを考えると定数を削減すべき。最低限の定数で市民ニーズに応えていくべきであり、3委員会×7名+議長=定数22名を主張したい。
15	佐々木 雅宏	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・私は農業者であるが、農業者の数も非常に少なくなっており、組織票では当選できない。組織票があるから減らすと言っているのではない。 ・議員定数の方程式はないが、やはり近隣類似都市を参考にすることは重要で、岩見沢や室蘭などは当市より少ない。 ・前回選挙が無投票だったことは無視できない。次回も無投票だったらどうする。 ・鎌倉市では、議員報酬を上げたら立候補が増えている。 ・定数を削減して身を切る改革を行なって、議員報酬を引き上げて生活を保障して、若い人が出られるようにすべきと考える。
17	松倉 美加	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・定数減を図り、20人くらいでもよいと考える。 ・何人だったら仕事ができるのかを考えたときに、現状の委員会を考えた場合、人数が多くなっても議論が活発になるとは思えなかった。6人でも議員個々が質を上げて議論を交わしていけば、やっていけると考える。 ・市民の声を拾い上げるのは重要だが、まずは議員としての職責を果たすことが大事であり、議員としての役割を果たせる環境整備を整えることが重要である。 ・民意の反映も大事だが、議員の質も求められている。 ・産建と厚生が6人、総文を6～7人として議長を入れて、定数は19～20人。
21	渡辺 和雄	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は皆さんの話を聞くことに専念したい。 ・日本の地方議員は、専門職でも名誉職でもない中途半端な制度である。 ・委員数を各1名減らしても委員会は運営できるのではないかと。
23	五十嵐 桂一	定数減	<ul style="list-style-type: none"> ・発言機会なし
10	島原 長久	定数増	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで3回立候補して、昨年の無投票の結果、今がある。ここにいる人は、地盤やカンバンがあるが、これがなければ当選できないと思う。 ・委員会数が3つでよいのか。もっと深く掘り下げるなら4つや5つでもよいのではないかと。 ・より多くの方が立候補して自分の意見を主張してこの場に来て、勉強して行政に対応することが大切である。 ・議員になるには落選のリスクを背負うことになるため勇気が必要であり、議員定数を削減すればリスクは高くなり、立候補者が減る。